

地域活性化伝道師プロフィール		分野	地域産業・イノベーション・農商工連携	◎	農・林・水産業	○
			地域医療、福祉・介護、教育		観光・交流	◎
			地域コミュニティ・集落再生	○	環境	○
			地域交通・情報通信		まちづくり	○
ふりがな		そねはら ひさし				
氏名		曾根原 久司				
所属	名称	特定非営利活動法人えがおつなげて				
	役職	代表理事				
連絡	住所	(公開)	〒 408-0313		(職場)	山梨県北杜市白州町横手2910-2
		(公開)	E-Mail sonehara[アットマーク]npo-egao.net			
	連絡先	(公開)	TEL	0551-35-4563	FAX	0551-35-4564
		連絡方法				
略歴	<p>長野県出身。金融機関等企業経営の経営コンサルタントを経て、現職。銀行などの経営コンサルタントを通して日本の未来に危機を感じ、その救済モデルを創造すべく、東京から山梨の農山村地域へ移住。都市と農村の共生社会の実現を目指すNPO法人えがおつなげてを設立。2007年に内閣府地域活性化伝道師に任命。他に、山梨大学客員准教授、山梨県立農業大学校講師、内閣府休眠預金等活用審議会専門委員、総務省地域力創造アドバイザー、農林水産省の農地水環境保全施策委員などを歴任。</p> <p><b>【えがおつなげて受賞履歴】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ディスカバー農山漁村の宝 優良事例 (H26年度) /主催:内閣官房・農林水産省</li> <li>■日経ソーシャルイニシアチブ大賞 大賞 (H26年度) /主催:日本経済新聞社</li> <li>■日本農業賞大賞受賞 食の架け橋の部 (H25年度) /主催:日本放送協会・全国農業協同組合中央会・都道府県農業協同組合中央会</li> </ul>					
著作・論文等	<p>「日本の田舎は宝の山」/日本経済新聞出版社 <a href="https://www.nikkeibook.com/item-detail/19953">https://www.nikkeibook.com/item-detail/19953</a></p> <p>「農村起業家になるー地域資源を宝に変える6つの鉄則」/日本経済新聞出版社 <a href="https://www.nikkeibook.com/item-detail/31828">https://www.nikkeibook.com/item-detail/31828</a></p> <p>「田舎の宝を掘り起こせ」/学芸出版社 <a href="http://ow.ly/fb128">http://ow.ly/fb128</a></p>					
取組概要	<p>山梨県北杜市須玉町増富地域は、かつては農林業が盛んであったが、現在は担い手の減少や高齢化に歯止めがかからず、集落崩壊の危機が迫る地域である。高齢化率66%、耕作放棄地52%、という、いわゆる限界集落となってしまった地域である。そんな状況の中、2003年4月の構造改革特区認定のもと、都市農村交流活動を行うことにより交流人口を増大させ、地域の活性化につなげようとする活動が始まった。この活動の開始から約10年経過した現在、活動に賛同した農村ボランティア等も含めて都市部から約50,000人が訪れ、耕作放棄地5haの復活、その農地での新たな形での農業生産、また企業の連携による遊休農地活用等の成果も現れてきている。現在、連携している企業は、三菱地所グループをはじめとして大手企業に始まり、山梨県内の菓子製造企業などである。また、全国の都道府県で、農村などの地方を活性化させることのできる人材を育成する起業家育成事業を実施している。受講された研修生は、1,000名以上となっている。また、そのうち250人以上が、各地域で起業を果たしている。</p>					
メッセージ	<p>私は、日本の田舎の資源は、宝だと思っている。また私は、この日本の田舎の宝の資源が上手に活用されたなら、10兆円ぐらいの国内産業が創出されるだろうと思っている。なぜなら、それぐらいの宝の資源の蓄積があるからだ。世界の先進国の中で、第2位の森林率を誇る森林資源。40万haにもなる耕作放棄地。地球10周分に匹敵する農業用水路。四季折々の美しい農村の自然景観。農村地域の暮らしの中で育まれた豊かな食文化等々。みな、すばらしい宝の資源だ。ただ、残念なことに、これらの資源が有効に活用されていない。しかし、もしもこれらの農村の資源に価値が与えられ、新しい商品となり有効に活用されたならば、私は、10兆円ぐらいの地域産業が創出されると思っている。私が考える農村資源を活用した10兆円産業とその内訳は、以下である。</p> <p>「6次産業化」による農業(3兆円)  農村での観光交流(2兆円)  森林資源の林業、建築、不動産等への活用(2兆円)  農村にある自然エネルギー(2兆円)  ソフト産業と農村資源活用の連携:情報、教育、健康、福祉、IT、メディア(1兆円)</p> <p>私は、この5分野が、日本の農村の資源特性から考えて、有望な産業分野と考えている。また、森林、農地、自然環境などを活かす10兆円規模の産業が創出されることで、100万人の雇用創出が可能だと考えている。また私自身、そんな考え方のもと、耕作放棄地や未活用の間伐材などを活用して、さまざまな事業を開発してきた。その事業の詳細は、NPO法人えがおつなげてのHPをご覧ください。また、弊書をお読みいただきたい。日本各地の農村資源の宝を活かして、新たな地域産業を各地で創造していこうではありませんか。</p>					
関連ホームページ	<a href="http://www.npo-egao.net">http://www.npo-egao.net</a>		活動エリア	首都圏		

※ 公開できる情報のみ掲載しています。  
※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。  
※ メール送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。